

AICHI JCP TIMES

暮らしと政治とあなたを結ぶ

Vol.16

「加計ありき」 審査中会閉 疑惑深まる



残業代ゼロ法修正でなく、廃案に

◆トヨタ自動車 電気自動車 EVへ

【日報隠ぺい?】



1 内閣支持率の
またまた下がったね
稲田防衛大臣の
自衛隊日報の
隠ぺい疑惑
も大問題だよな。

2 安倍首相は、
特別防衛監察中
だからあえて
事情を聞かない
んだって？

3 銃声が響く中で
自衛隊が命がけて送っ
た報告を握りつぶして
いたかもしれない話を
報道されてから
4カ月以上経つのに
いまだに報告も求め
てないなんて！

4 政府ぐるみで
隠ぺいするなら
国会が真相解明の役割
を果たすしかない
稲田防衛大臣
関係者の証人喚問を！

内閣改造では
済まされない

解散総選挙で国民の信を問え!

閉会中審査: 加計

内閣改造後「加計ありき」加速
首相と会食・ゴルフ 3大臣と面会

日	内容
9月3日	内閣改造で地方創生相を石破茂氏から山本幸三氏に交代
10日	安倍首相が加計氏らと会食
11日	安倍首相が加計氏らとゴルフ
23日	加計氏が山本農水相と面会
9月6日	加計氏が松野文科相と面会
7日	加計氏が山本地方創生相と面会
9日	和泉首相補佐官が前川前文科事務次官を呼び出し、獣医学部新設を進めるよう指示 「総理は自分の口から言えないから、私が代わって言う」(前川氏の証言) その後、前川氏は9月29日、10月17日に和泉氏と面会(前川氏証言)
28日	藤原内閣府審議官との打ち合わせ概要「官部の最高レベルが言っている」
10月2日	安倍首相が加計氏らと会食
21日	萩生田副長官「総理は『平成30年4月開学』とおしりを切っていた」「官部は絶対やると言っている」(同氏の発言概要)
11月9日	国家戦略特区諮問会議で「広域的に」「存在しない地域に限り」獣医学部新設を認める
17日	10月10日 加計学園が事業者として応募、他に応募なし 20日 「加計学園の申請を知った」(安倍首相)

学校法人「加計学園」(加計孝太郎理事長)の国家戦略特区での獣医学部新設をめぐる疑惑が深まるなか、24、25両日開かれた衆参予算委員会の閉会中審査では、長年にわたる安倍晋三首相と加計氏の親密な関係が浮き彫りになりました。安倍首相は、この関係

を打ち消すかのように、加計学園に決まった1月20日まで同学園の獣医学部新設の意向を知らなかったなどと、従来の自らの答弁まで修正。新疑惑が続出し、臨時国会の召集と加計氏ら関係者の証人喚問は待ったなしの課題です。

残業代ゼロ法案

残業代ゼロ法案に 高プロ悲惨な働き方



過労死遺族ら5団体 家族を過労死で亡くした遺族や弁護士らでつくる五つの団体が26日、労働時間規制を外す高度プロフェッショナル制度の導入や、何時間働いても一定時間しか認めない裁量労働制の拡大などが盛り込まれた「残業代ゼロ」法案に反対して、厚生労働省で共同記者会見を行いました。法案は「長時間労働、過労死を促進

させるもの」だと批判。さまざまな団体と力を合わせて必ず廃案に追い込んでいくと語りました。

原案	修正案
①勤務間インターバル確保 ②健康管理時間 ③年間104日以上の休日 ※どれか一つ選ぶ	義務化: 年104日以上の休日 選択的措置: 原案①②に加え ③2週間連続休日 ④臨時の健康診断 ※どれか一つ選ぶ

修正では年104日の休日を義務付けました。これは週休二日で祝日もお盆も正月もなく働く事を可能にします。つまり261日は労働時間の規制なく残業代も払わず働かせ放題という悲惨な働き方を容認するものです。連合は修正合意について組織内に異論が多い事を踏まえ、見送る方針を正式に決めました。「高プロ」制度は修正でなく撤回に追い込むべきです。

共産党に質問

Q: 憲法をまもるっていうけど、天皇制は? A: 現行憲法の規定を厳格にまもります。

共産党が政権にはいつても、象徴天皇制がなくなることはありません。天皇は「国政に関する権能を有しない」という第4条をまもり、天皇の政治利用に反対します。私たちは、一人の個人が世襲で国民統合の象徴とされるのは、民主主義の制度、人間の平等とは相容れないと考えています。しかし、国民が「天皇制の廃止」をもとめるようになるまでは、天皇制と共存していきます。

Aichi news

トヨタ自動車 電気自動車EVへ

トヨタ自動車は、電気自動車(EV)の生産、販売を2019年にも中国で始める方針を固めました。小型スポーツタイプ多目的車(SUV)「C-1エス」をベースとします。トヨタのEV重視にかじを切る中、トヨタも世界最大市場の中国で参入します。英国では2040年までに、ガソリン&ディーゼル車の販売を禁止しEV車へ完全移行を目指しています。トヨタ自動車は燃料電池車の開発で苦悩する中、世界の流れを汲み、EVへのかじを切る事となりますが、エンジン車と比較すると、EVは部品が極端に減る事から、自動車部品産業が支えてきた愛知の経済や雇用環境に、与える影響を注視して行く必要があります。